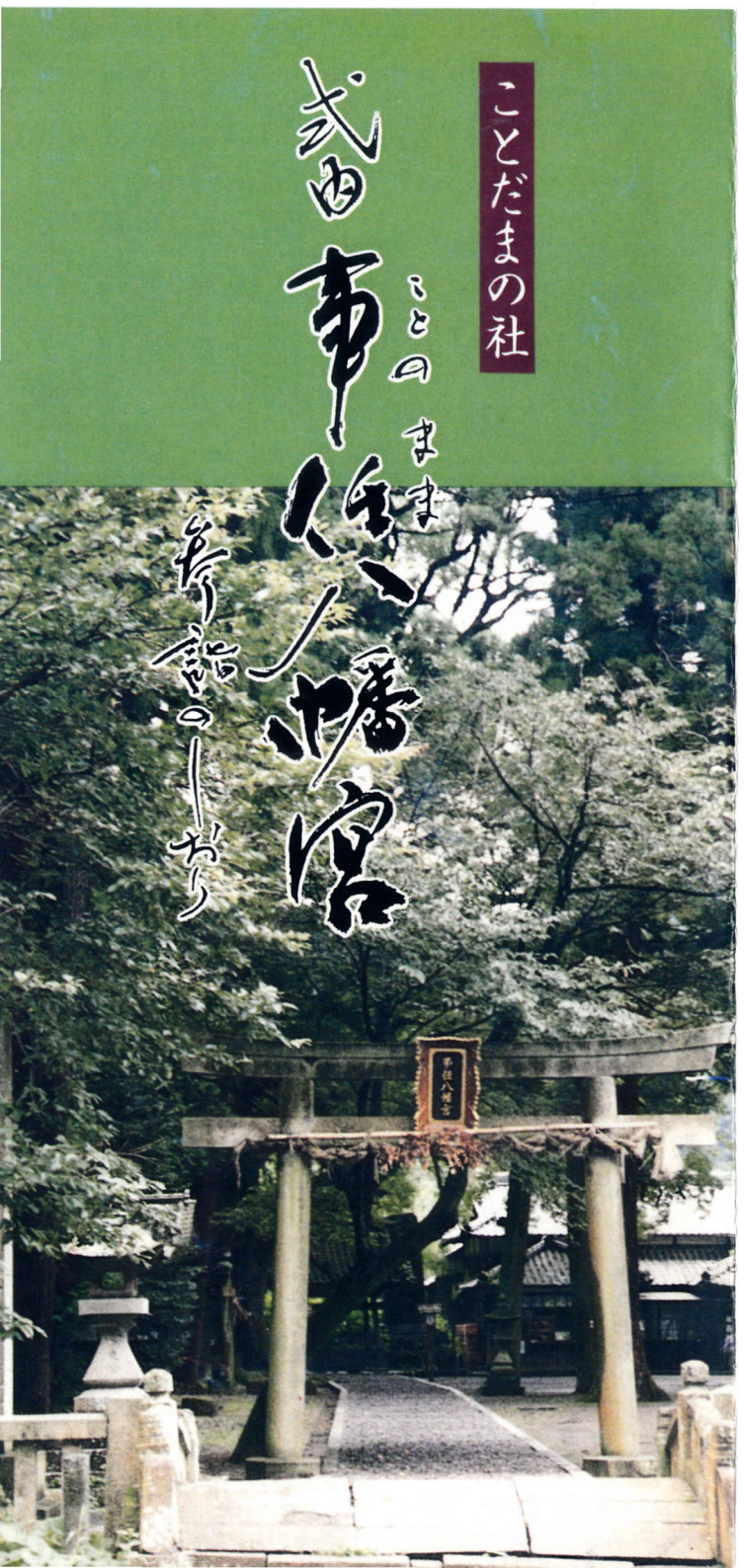

年中行事

◆月次祭	毎月一日・十五日
◆本宮月次祭	毎月八日・十八日・二十八日
◆元旦祭	一月一日
◆交通安全祈願祭	一月二日
◆御焚上祭	一月十五日
◆節分祭	二月　節分
◆建国祭	二月十一日
◆祈年祭・稲荷神社祭	二月十七日
◆献茶祭	五月（八十八夜）
◆夏越大祓祭	六月三十日
◆五社神社祭	九月一日
◆例大祭	九月敬老の日前の金土日
◆十五夜祭	旧暦の八月十五日
◆金刀比羅神社祭	十月十日
◆中酉祭	十一月　中酉日
◆応神天皇誕生祭	十二月十四日
◆師走大祓祭	十二月三十一日

遠江国一の宮　**事任八幡宮**

静岡県掛川市八坂６４２
TEL:０５３７－２７－１６９０
FAX:０５３７－２７－０５９６
ホームページURL
http://www.geocities.jp/kotonomachihime/index.htm

■御神徳

ことのまま様のご神徳としては、真を知る神、言の葉で事を取り結ぶ働きをもたれる神様として、また、言の葉を通して世の人々に加護を賜う「ことよさし」の神として言の葉によりご神縁が結ばれお導きが得られます。天と地と人を結ぶ、とても大切なお働きをなさいます。

また、八幡様のご神徳として、開運授福、安産、延命長寿、厄除、縁結び、交通安全、家内安全、商売繁盛、芸事上達等広大無辺にご神徳あらたかな神々様です。

■境内社（摂社）

・五社神社（西の宮様）
　〈ご祭神〉
　天照大神
　八意思兼神
　火迦具土神
　大国主神
　東照大権現

・稲荷神社
　〈ご祭神〉
　宇迦御魂神

・金刀比羅神社
　〈ご祭神〉
　大物主神

ご祭神

＊事任八幡宮には四柱の神々がお祀りされています。

主祭神

◇己等乃麻知比売命（ことのまちひめのみこと）

言霊の神・興台産命（ここと むすびのみこと）の后神でいらっしゃいます。言の葉で事をとり結ぶ働きをもたれる神、言の葉を通して世の人々に加護を賜う「ことよさし」の神として広く人々にうやまわれています。春日大社・枚岡神社にお祭りされている天児屋根命（あめのこやねのみこと）の母神様です。

八幡大神

◇息長足比売命（おきながたらしひめのみこと）

第十四代仲哀天皇の皇后さまで神功皇后さまです。当時国交を結んでいた朝鮮南部の任那より帰国してまもなく誉田別命を出産されました。兵乱がおさまると誉田別命を皇太子に立てて自ら摂政となられ、百歳の長寿を全うされました。

◇譽田別命（ほむだわけのみこと）

応神天皇（第十五代天皇）で神功皇后の御子でいらっしゃいます。百済王の子阿直伎や王仁を招き、日本に新たな文学や産業などの文化を招来させたすぐれたお方です。

◇玉依比売命（たまよりひめのみこと）

第一代神武天皇の母神さまで、海神の大海神見神（おおわたつみのかみ）の娘神様です。

ご由緒

創建年代は不詳ですが、成務天皇の御代（一九〇年頃）にご鎮座され、大同二年（八〇七年）坂上田村麻呂東征の際に桓武天皇の勅を奉じ、本宮山より現在の地にご遷宮されたと伝えられています。

古くは「己等乃麻智神社」「任事社」と尊称され、平安時代に書かれた「枕草子」や「延喜式神名帳」にも当社の名前が載せられております。願いごとのままに叶う有り難い言霊の社として京にも知れ渡っていたようです。

武家社会の世になり八幡信仰が隆盛し、康平五年（一〇六二年）源頼義が京都より石清水八幡宮を当社に勧請してからは「八幡宮」を称するようになりました。

慶長十三年（一六〇八年）に徳川家康公が本殿を造営、寛永五年（一六二八年）に徳川秀忠公が中門を造営されました。徳川幕府は御朱印百石余りを献上しており、本殿の金具には菊の紋と葵の紋が刻まれていることから将軍家が当社を信仰なさっていたことがうかがえます。

また、当社は東海道筋の難所である佐夜の中山の手前に鎮座することから和歌も多く詠まれ「十六夜日記」「東関紀行」「岡部日記」等多くの紀行文に記載されています。

明治五年、県社に列せられた折には「県社八幡神社」と称していましたが、昭和二十二年社格の撤廃の折、古来の社号「ことのままの社」に基づいて「事任八幡宮」と改称しました。

古称　己等乃麻知神社

真淵の「岡部日記」によれば、「下れば新坂の宿也。すくのはてなる社を今の世にはは八幡の社なりといふ。こは延喜式に佐夜郡己等乃麻知神社とあるなるべし。はやく文徳の御時、従五位下の神位になし給へるにはは任事社（ことのまま）のやしろ）としるされたり。清少納言が記にも（ことのまま）の明神いとたのもし。さのみききけんとやいはれんと思ふぞいとをかしき）とかきたるにむかへ見れば（ことのまま）とあるぞおぼつかなのきき。さて鴨長明も（さやの中山のくちにあるなることのまま）の社）をかければ其比までは（うたがひなかりけむ）とあるを見ても、古くから遠く京都にまで知れ渡る神社であり、鎌倉時代まで（遠江国一の宮）ことのまでは「ことのまの社」と知られ、多くの人々から崇拝されています。越すに越されぬとりまいわすれた大井川と、箱根に次ぐ小夜の難所をいわれた、東海道筋ある当社に参拝されたことは「十六夜日記」「東関紀行」などにも記されています。

ことだまの杜「本宮」

楠の木

ご神木「大杉様」